

流域治水プロジェクト ～一級水系(109水系)、二級水系(12水系)で策定・公表～

資料 4

- 「流域治水プロジェクト」は、国、流域自治体、企業等が協働し、河川整備に加え、雨水貯留浸透施設や土地利用規制、利水ダムの事前放流など、各水系で重点的に実施する治水対策の全体像を取りまとめたものであり、今般、全国109の一級水系、12の二級水系で策定・公表しました。
- 本プロジェクトのポイントは、①様々な対策とその実施主体の見える化、②対策のロードマップを示すとともに各水系毎に河川事業などの全体事業費の明示、③協議会によるあらゆる関係者と協働する体制の構築を行ったことです。
- 今後、関係省庁と連携して、プロジェクトに基づくハード・ソフト一体となった事前防災対策を一層加速化するとともに、対策の更なる充実や協働体制の強化を図ります。

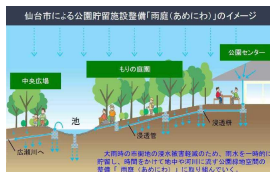
【ポイントその①】 様々な対策とその実施主体の見える化

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・ 堤防整備、河道掘削、ダム建設・再生、砂防関係施設や雨水排水網の整備 等



河道掘削
(石狩川水系、北海道開発局)



公園貯留施設整備
(名取川水系、仙台市)



用水路の事前水位低下による雨水貯留
(吉井川水系、岡山市)

② 被害対象を減少させるための対策

- ・ 土地利用規制・誘導、止水板設置、不動産業界と連携した水害リスク情報提供 等



二線堤の保全・拡充
(鮎川水系、大洲市)



災害危険区域設定
(久慈川水系、常陸太田市)



住宅地盤嵩上げに対する助成
(梯川水系、小松市)

③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ マイ・タイムラインの活用、危機管理型水位計、監視カメラの設置・増設 等



自主防災活動による畳堤設置
(揖保川水系、たつの市)



避難訓練の支援
(五ヶ瀬川水系、高千穂町)



公園等を活用した高台の整備
(庄内川水系、名古屋市)

【ポイントその②】 対策のロードマップを示して連携を推進

- ・ 目標達成に向けた工程を段階的に示し、実施主体間の連携を促進

- 短期：被災箇所への復旧や人口・資産が集中する市街地等のハード・ソフト対策等、短期・集中対策によって浸水被害の軽減を図る期間(概ね5年間)
- 中期：実施中の主要なハード対策の完了や、居住誘導等による安全なまちづくり等によって、当面の安全度向上を図る期間(概ね10年～15年間)
- 中長期：戦後最大洪水等に対して、流域全体の安全度向上によって浸水被害の軽減を達成する期間(概ね20～30年間)

<ロードマップのイメージ>

区分	主な対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策	河道掘削	河川事務所、都道府県、市町村	短期	中期	中長期
	ため池等の活用	市町村	短期	中期	中長期
被害対象を減少させるための対策	浸水リスクの低いエリアへの居住誘導	市町村	短期	中期	中長期
	浸水防止板設置	市町村	短期	中期	中長期
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	公園を利用した高台整備	市町村	短期	中期	中長期
	地区タイムラインの作成	都道府県、市町村	短期	中期	中長期

【ポイントその③】 あらゆる関係者と協働する体制の構築



流域治水協議会開催の様子

- ・ 全国109の一級水系全てにおいて、総勢2000を超える、国、都道府県、市町村、民間企業等の機関が参画し、協議会を実施。
- ・ 地方整備局に加え、地方農政局や森林管理局、地方気象台が協議会の構成員として参画するなど、省庁横断的な取組として推進

淀川水系流域治水プロジェクト 【琵琶湖(滋賀県域)】

淀川水系流域治水プロジェクト【琵琶湖(滋賀県域)】

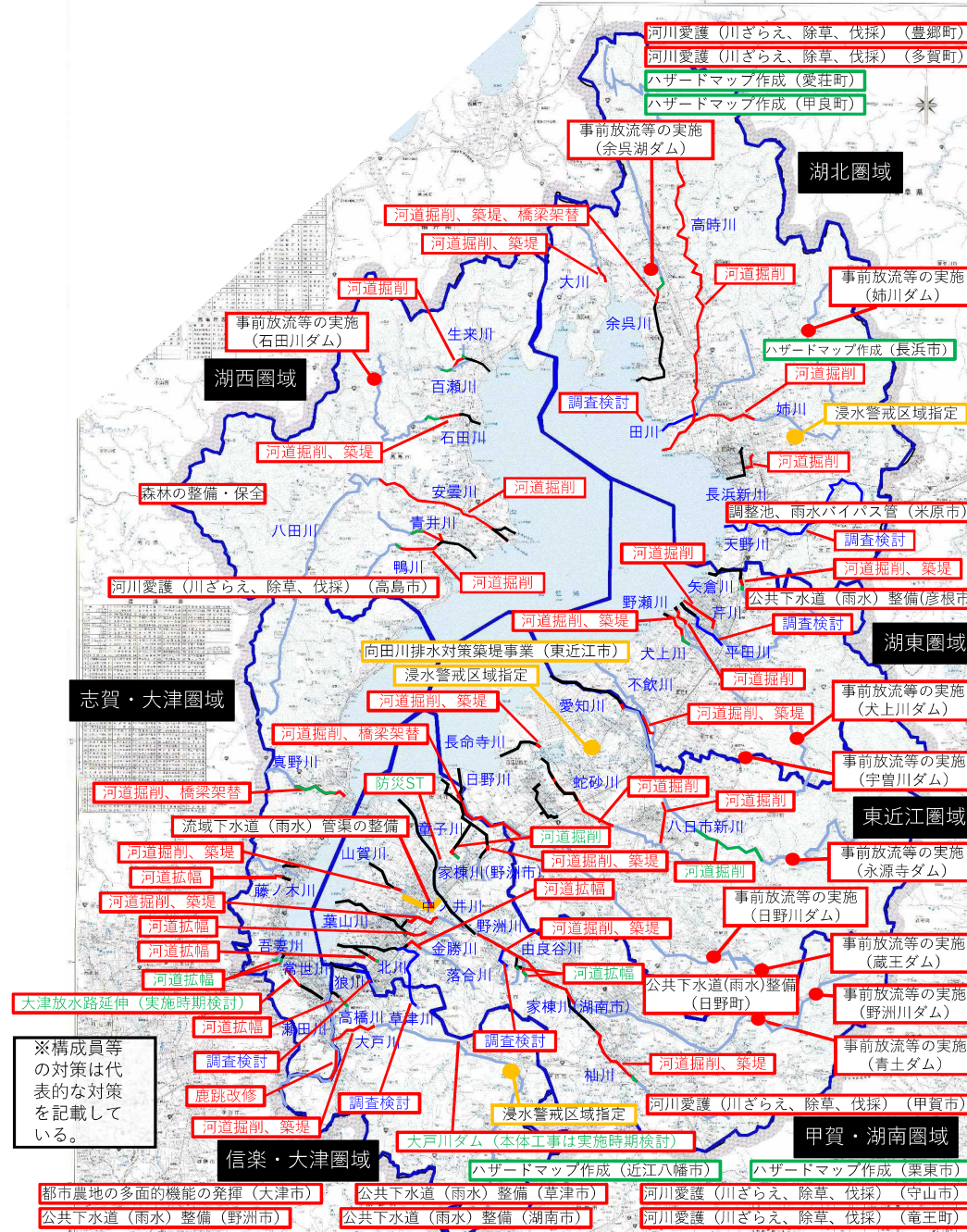
目次

1. 全体位置図
2. ロードマップ
3. 圏域毎の位置図
 - 3-1. 志賀・大津、信楽・大津圏域
 - 3-2. 甲賀・湖南圏域
 - 3-3. 湖東、東近江圏域
 - 3-4. 湖西、湖北圏域
4. 代表的な対策
 - 4-1. 瀬田川鹿跳溪谷改修事業
 - 4-2. 滋賀の流域治水の取組

淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖(滋賀県域)分会 【位置図】

～琵琶湖流域人口141万人の「滋賀県民」の命を守る治水対策の推進～

○近年、気候変動の影響等により各地で激甚な災害が発生したことを踏まえ、琵琶湖流域においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。



- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策**
- 洪水氾濫対策
 志賀・大津圏域 藤ノ木川(河道拡幅)、真野川(河道掘削・橋梁架替)、瀬田川(鹿跳改修)、常世川・吾妻川(河道拡幅)、大津放水路(延伸(実施時期検討))、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
 信楽・大津圏域 大戸川(河道掘削・築堤)、高橋川(河道拡幅)、大戸川(大戸川ダム(本体工事は実施時期検討))、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
 甲賀・湖南圏域 野洲川(河道掘削・築堤)、山賀川(河道掘削・築堤)、葉山川(河道拡幅)、中ノ井川(河道掘削・築堤)、金勝川(河道拡幅)、北川(河道拡幅)、杉川(河道掘削・築堤)、家棟川(野洲市)(河道掘削・築堤)、家棟川(湖南市)(河道拡幅)、由良谷川(河道拡幅)、童子川(河道掘削)、落合川(調査検討)、草津川(調査検討)、狼川(調査検討)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
 東近江圏域 長命寺川(河道掘削・築堤)、日野川(河道掘削・橋梁架替)、八日市新川(河道掘削)、蛇砂川(河道掘削)、愛知川(河道掘削)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
 湖東圏域 犬上川(河道掘削・築堤)、不飲川(河道掘削・築堤)、芹川(河道掘削)、野瀬川(河道掘削)、矢倉川(河道掘削・築堤)、平田川(調査検討)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
 湖北圏域 余呉川(河道掘削・築堤・橋梁架替)、長浜新川(河道掘削)、姉川・高時川(河道掘削)、大川(河道掘削・築堤)、田川(調査検討)、天野川(調査検討)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
 湖西圏域 安曇川(河道掘削)、石田川(河道掘削・築堤)、鴨川(河道掘削)、百瀬川(河道掘削)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
- 内水氾濫対策
 ○流域下水道(雨水)管渠の整備 ○公共下水道(雨水)管渠等の整備 ○琵琶湖沿岸の内水排除
- 土砂災害対策
 ○砂防関係施設の整備
- 流水の貯留機能の拡大 ○既存ダムを活用した事前放流等の実施
 流域の雨水貯留機能の向上 ○雨水貯留施設の整備 ○開発行為に伴う調整池の設置 ○森林の整備・保全 ○治山対策
 ○農地・農業水利施設の整備・保全 ○ため池の整備・保全
- 既存管理施設の適切な維持管理 ○老朽化対策 ○耐震対策

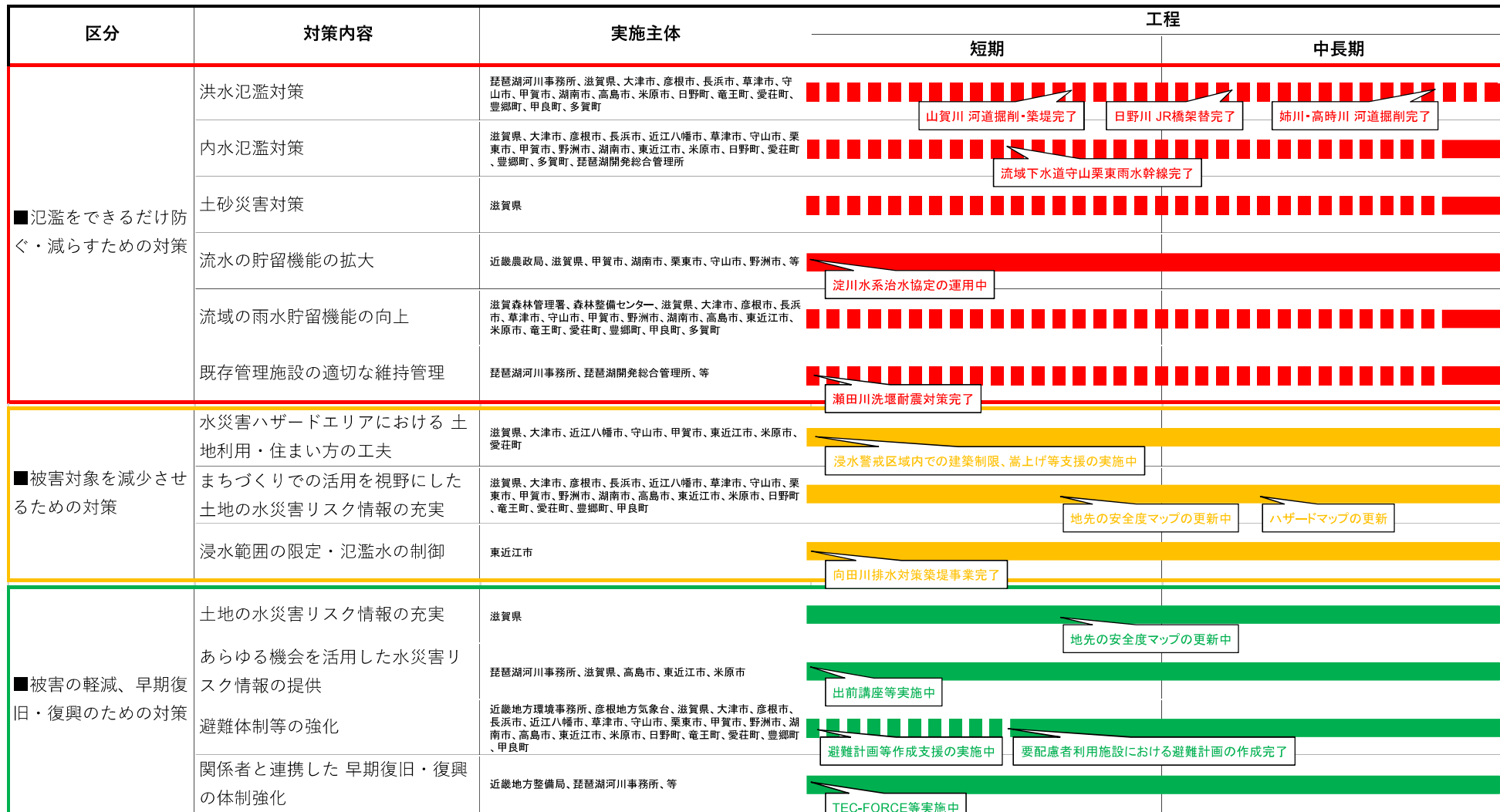
- 被害対象を減少させるための対策**
- 水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫
 ○市街化区域新規編入時の土地利用誘導の実施 ○浸水警戒区域指定による建築規制の実施
 ○浸水警戒区域内での嵩上げ等安全な住まい方の支援
 まちづくりでの活用を視野にした土地の水災害リスク情報の充実
 ○地先の安全度マップによる想定浸水深の公表、更新 ○ハザードマップの作成
 浸水範囲の限定・氾濫水の制御
 ○市町における浸水対策事業

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策**
- 土地の水災害リスク情報の充実
 ○水害履歴調査結果の公表 ○地先の安全度マップによる想定浸水深の公表、更新
- あらゆる機会を活用した水災害リスク情報の提供
 ○自治会や小学校等での水害出前講座の実施 ○河川水位計や河川防災カメラの設置と情報提供 ○簡易量水標の設置
 ○水防団や地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検
- 避難体制等の強化
 ○特に水害リスクの高い地区における避難計画作成支援 ○避難に資するマップ等の整備・拡充
 ○避難勧告等の判断・伝達マニュアルの整備 ○広域的な避難計画等の策定支援
 ○要配慮者利用施設における避難計画等の策定及び避難訓練の実施 ○避難行動に資する情報発信等の充実
 ○自治会等における避難計画および避難行動要支援者の個別避難計画の策定支援
 ○ハザードマップ、マイタイムラインの作成 ○気候変動等を踏まえた気象観測・予測の高度化、監視の強化
 ○防災士の養成支援
- 関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化
 ○河川防災ステーション(水防拠点)整備 ○被災自治体に対する支援

※構成員等の対策は代表的な対策を記載している。

淀川水系流域治水プロジェクト 琵琶湖（滋賀県域）分会【ロードマップ】

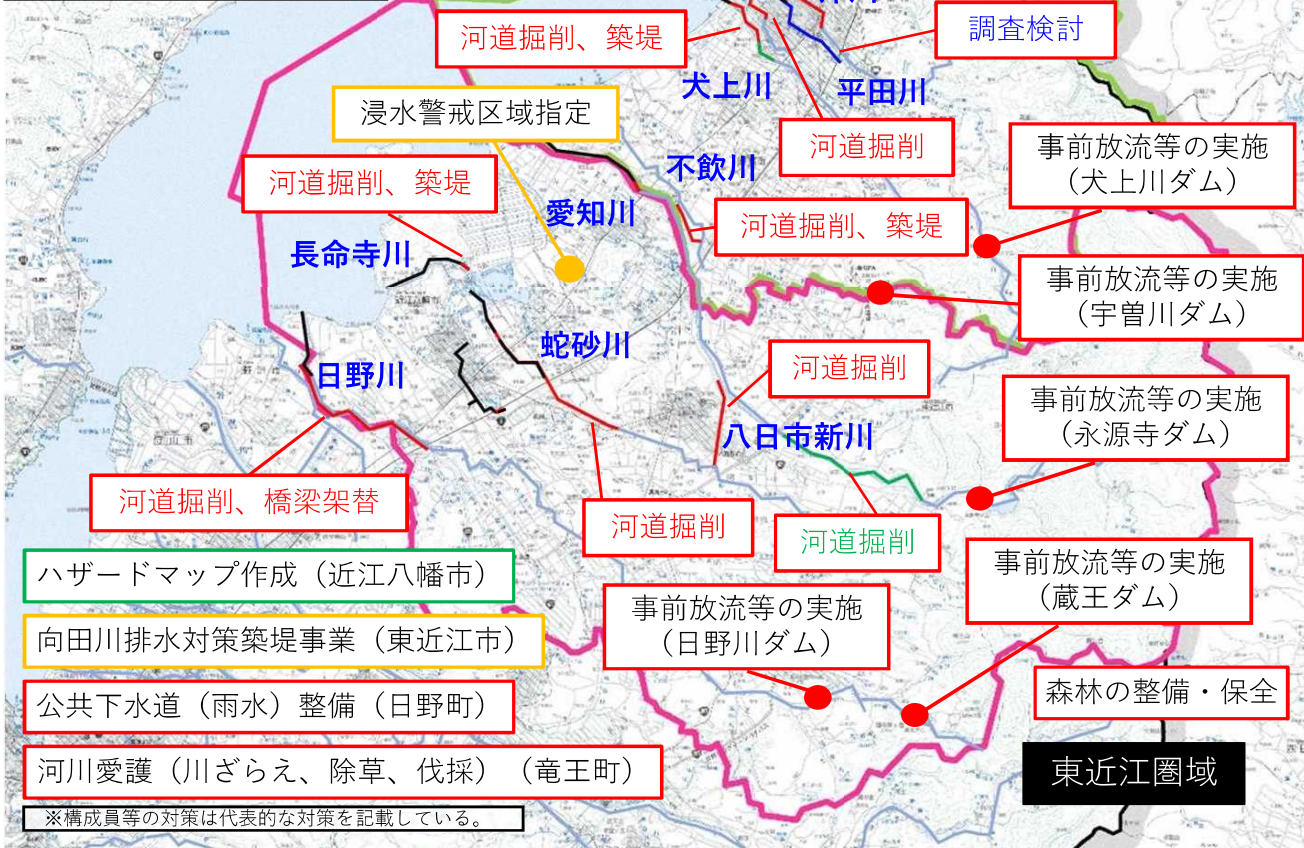
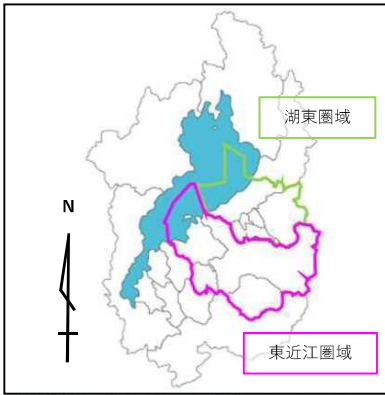
- 琵琶湖流域では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町等が一体となって、「流域治水」を推進する。
【短期】 洪水を安全に流下させるため、河道掘削、堤防整備を主に実施すると共に、安全なまちづくりや内水被害軽減対策などの流域対策、タイムライン活用等のソフト対策を実施。
【中長期】 大規模な浸水被害から人命や資産を守るため、河川整備や流出抑制策を実施し、あわせて、安全なまちづくりや内水被害軽減対策などの流域対策、タイムライン活用等のソフト対策を継続実施する事により流域全体の安全度向上を図る。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。
 ※河川管理者の河川整備計画は、現時点では現行計画を基にプロジェクトに反映しますが、今後、河川整備計画の変更手続きを行う予定なので、変更された場合にはその内容を反映します。
 ※他の事業者の計画も見直されれば、同様に反映します。
 ※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

凡例
 点線:対策(工事)中、対策計画等作成中
 実線:対策(工事)完了、対策計画等に基づく行動

淀川水系流域治水プロジェクト（湖東、東近江圏域）



公共下水道（雨水）整備（彦根市）

河川愛護（川ざらえ、除草、伐採）（多賀町）

河川愛護（川ざらえ、除草、伐採）（豊郷町）

ハザードマップ作成（甲良町）

ハザードマップ作成（愛荘町）

湖東圏域

河道掘削、築堤

河道掘削、築堤

調査検討

浸水警戒区域指定

河道掘削、築堤

河道掘削

事前放流等の実施
（犬上川ダム）

河道掘削、築堤

事前放流等の実施
（宇曾川ダム）

河道掘削

事前放流等の実施
（永源寺ダム）

河道掘削、橋梁架替

河道掘削

河道掘削

事前放流等の実施
（蔵王ダム）

ハザードマップ作成（近江八幡市）

向田川排水対策築堤事業（東近江市）

事前放流等の実施
（日野川ダム）

森林の整備・保全

公共下水道（雨水）整備（日野町）

河川愛護（川ざらえ、除草、伐採）（竜王町）

東近江圏域

※構成員等の対策は代表的な対策を記載している。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。
 ※河川管理者の河川整備計画は、現時点では現行計画を基にプロジェクトに反映しますが、今後、河川整備計画の変更手続きを行う予定なので、変更された場合にはその内容を反映します。
 ※他の事業者の計画も見直されれば、同様に反映します。
 ※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 洪水氾濫対策**
 東近江圏域 長命寺川(河道掘削・築堤)、日野川(河道掘削・橋梁架替)、八日市新川(河道掘削)、蛇砂川(河道掘削)、愛知川(河道掘削)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
 湖東圏域 犬上川(河道掘削・築堤)、不飲川(河道掘削・築堤)、芹川(河道掘削)、野瀬川(河道掘削)、矢倉川(河道掘削・築堤)、平田川(調査検討)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全
- 洪水氾濫対策の色分け
 赤：整備実施区間 緑：整備時期検討区間 青：調査検討区間

- 内水氾濫対策**
 ○公共下水道（雨水）管渠等の整備 ○琵琶湖沿岸の内水排除
- 土砂災害対策**
 ○砂防関係施設の整備
- 流水の貯留機能の拡大**
 ○既存ダムを活用した事前放流等の実施
- 流域の雨水貯留機能の向上**
 ○雨水貯留施設の整備 ○開発行為に伴う調整池の設置 ○森林の整備・保全 ○治山対策
 ○農地・農業水利施設の整備・保全 ○ため池の整備・保全
- 既存管理施設の適切な維持管理**
 ○老朽化対策 ○耐震対策

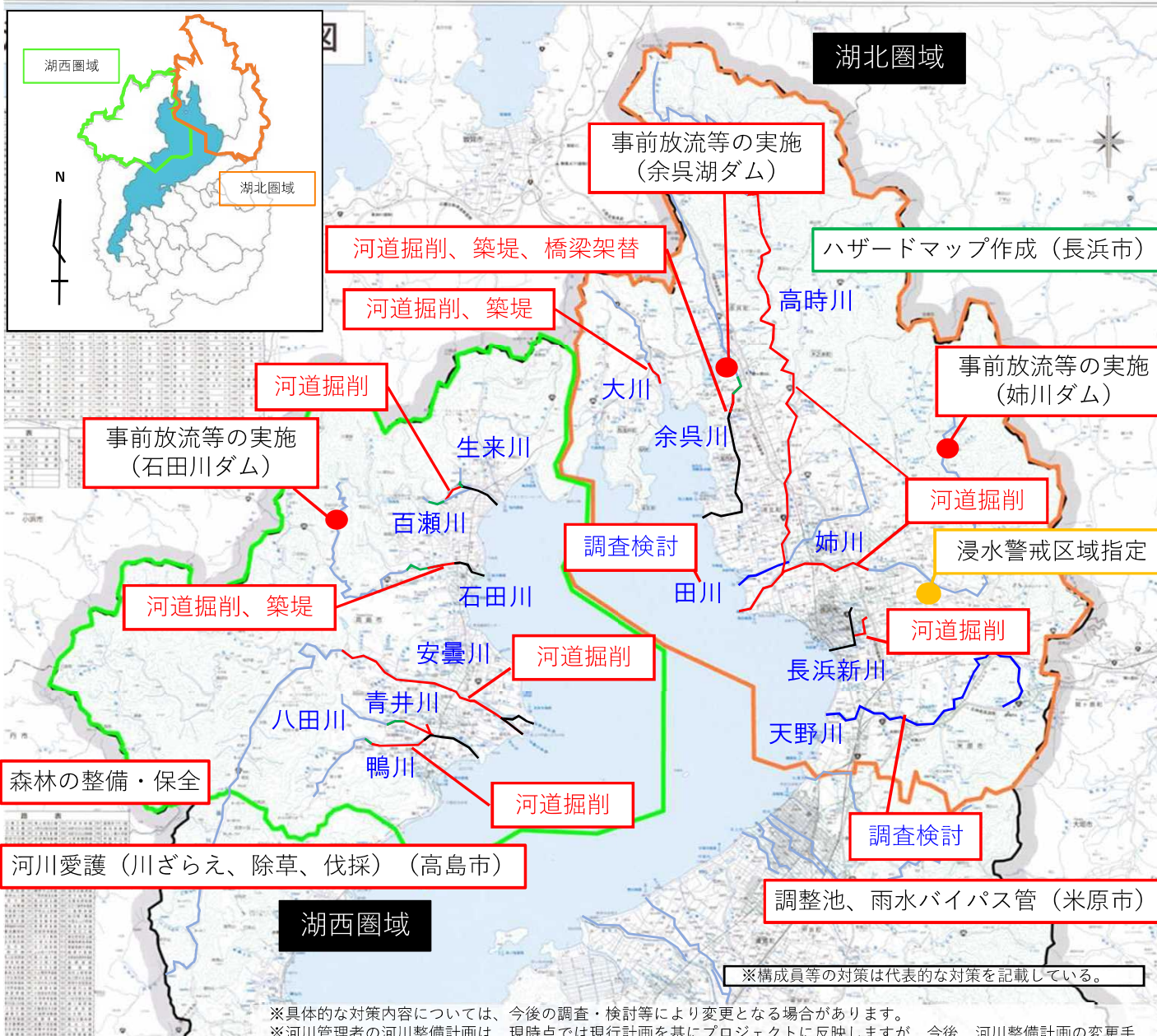
■ 被害対象を減少させるための対策

- 水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫**
 ○市街化区域新規編入時の土地利用誘導の実施
 ○浸水警戒区域指定による建築規制の実施
 まちづくりでの活用を視野にした土地の水災害リスク情報の充実
 ○地先の安全度マップによる想定浸水深の公表、更新 ○ハザードマップの作成
- 浸水範囲の限定・氾濫水の制御**
 ○市町における浸水対策事業

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 土地の水災害リスク情報の充実**
 ○水害履歴調査結果の公表 ○地先の安全度マップによる想定浸水深の公表、更新
 あらゆる機会を活用した水災害リスク情報の提供
- 避難体制等の強化**
 ○特に水害リスクの高い地区における避難計画作成支援
 ○避難に資するマップ等の整備・拡充 ○避難勧告等の判断・伝達マニュアルの整備
 ○広域的な避難計画等の策定支援
 ○要配慮者利用施設における避難計画等の策定及び避難訓練の実施
 ○避難行動に資する情報発信等の充実
 ○自治会等における避難計画および避難行動要支援者の個別避難計画の策定支援
 ○ハザードマップ、マイ・タイムラインの作成
 ○気候変動等を踏まえた気象観測・予測の高度化、監視の強化 ○防災士の養成支援
- 関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化**
 ○被災自治体に対する支援

淀川水系流域治水プロジェクト（湖西、湖北圏域）



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

洪水氾濫対策

湖北圏域 余呉川(河道掘削・築堤・橋梁架替)、長浜新川(河道掘削)、姉川・高時川(河道掘削)、大川(河道掘削・築堤)、田川(調査検討)、天野川(調査検討)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全

湖西圏域 安曇川(河道掘削)、石田川(河道掘削・築堤)、鴨川(河道掘削)、百瀬川(河道掘削)、普通河川の整備・一級河川および普通河川の保全

洪水氾濫対策の色分け
赤：整備実施区間 緑：整備時期検討区間 青：調査検討区間

内水氾濫対策

- 公共下水道(雨水)管渠等の整備
- 琵琶湖沿岸の内水排除

土砂災害対策

- 砂防関係施設の整備

流水の貯留機能の拡大

- 既存ダムを活用した事前放流等の実施

流域の雨水貯留機能の向上

- 開発行為に伴う調整池の設置
- 森林の整備・保全
- 治山対策
- 農地・農業水利の整備・保全
- ため池の整備・保全

既存管理施設の適切な維持管理

- 老朽化対策
- 耐震対策

■ 被害対象を減少させるための対策

水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫

- 市街化区域新規編入時の土地利用誘導の実施
- 浸水警戒区域指定による建築規制の実施
- 浸水警戒区域内での嵩上げ等安全な住まい方の支援

まちづくりでの活用を視野にした土地の水災害リスク情報の充実

- 地先の安全度マップによる想定浸水深の公表、更新
- ハザードマップの作成

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地の水災害リスク情報の充実

- 水害履歴調査結果の公表
- 地先の安全度マップによる想定浸水深の公表、更新

あらゆる機会を活用した水災害リスク情報の提供

- 自治会や小学校等での水害出前講座の実施
- 河川水位計や河川防災カメラの設置と情報提供
- 簡易量水標の設置
- 水防団や地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検

避難体制等の強化

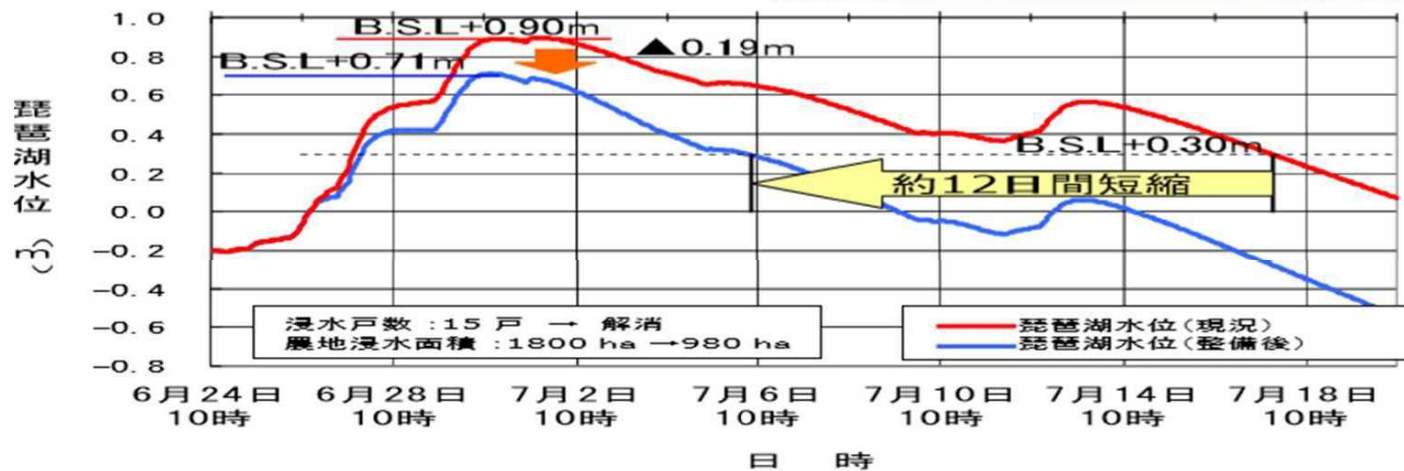
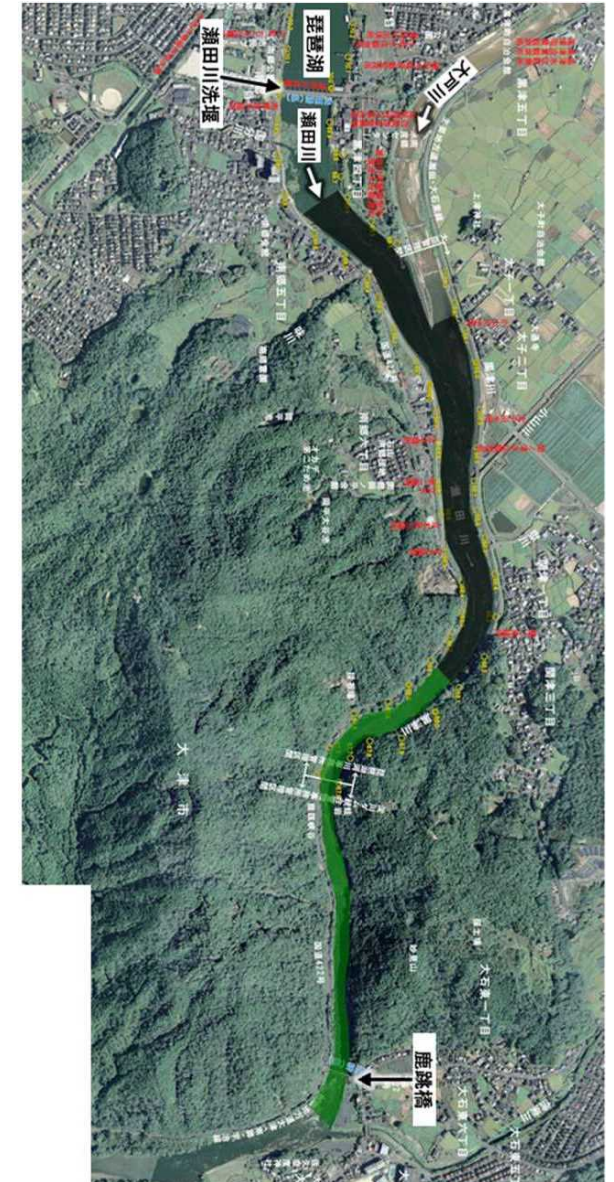
- 特に水害リスクの高い地区における避難計画作成支援
- 避難に資するマップ等の整備・拡充
- 避難勧告等の判断・伝達マニュアルの整備
- 広域的な避難計画等の策定支援
- 要配慮者利用施設における避難計画等の策定及び避難訓練の実施
- 避難行動に資する情報発信等の充実
- 自治会等における避難計画および避難行動要支援者の個別避難計画の策定支援
- ハザードマップ、マイ・タイムラインの作成
- 気候変動等を踏まえた気象観測・予測の高度化、監視の強化
- 防災士の養成支援

関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化

- 被災自治体に対する支援

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。
 ※河川管理者の河川整備計画は、現時点では現行計画を基にプロジェクトに反映しますが、今後、河川整備計画の変更手続きを行う予定なので、変更された場合にはその内容を反映します。
 ※他の事業者の計画も見直されれば、同様に反映します。
 ※新たな関係者にも広く参加を呼びかけることから、新たな関係者の計画も反映します。

○ 琵琶湖に流入している河川117本に対して、琵琶湖から流出する河川は瀬田川1本であり、洪水時には瀬田川洗堰の全閉操作等によりさらに琵琶湖水位が上昇する。そのため、鹿跳溪谷を改修することにより上昇のピーク水位を抑制するとともに、上昇した琵琶湖水位を速やかに低下させるものである。



<昭和36(1961)年6月洪水シミュレーション> 琵琶湖後期放流による琵琶湖水位の時間変化の比較

瀬田川改修・天ヶ瀬ダム再開発、宇治川塔の島地区改修後の効果

- ・琵琶湖の高水位を19センチ低下させます。
- ・沿岸に浸水被害が生じるB.S.L.+30m以上の日数を約12日間短縮することができます。

滋賀の流域治水の取組

滋賀県

- 滋賀県では平成24年に「滋賀県流域治水基本方針」を策定し、どのような洪水にあっても、人命が失われることを避け（最優先）、生活再建が困難となる被害を避けることを目的として、ハード、ソフトの取組を総合的に展開している。
- 平成26年には、基本方針を実効性あるものにするため、「滋賀県流域治水の推進に関する条例」を制定した。
- 滋賀の流域治水では、「ながす（河道内で洪水を安全に流下させる対策）」を基幹的対策とし、「ためる（流域貯留対策）」「とどめる（はん濫原減災対策）」「そなえる（地域防災力向上対策）」の4つの対策を総合的に実施している。

事業メニューの内容、イメージ

流域治水対策の分類

そなえる

ながす



河川改修・維持管理



雨水幹線整備



図上訓練



出前講座



水害履歴調査

ためる



駐車場における雨水貯留



農地保全



森林保全

とどめる



避溢橋



宅地嵩上げ



浸水警戒区域指定